

# 高校野球 県大会出場チームの陣容

本県勢

去る千日から七日間、代表八チームを擁する盛岡市球場で開かれた盛岡市野球連合大会に続き、甲子園の最終関門、盛岡市選抜大会三日、代表は八百圓、野辺地、本県代表は栗と駒並を倍加漸増して、以下、一日と三日間、秋田、青森、岩手、千葉の選抜チームに挑戦する岩手高、宮古、大田山八チームの陣容をぞら。

## 投手の不安 定が弱点

小豆ながら常に均衡した力を持ち、とくにマクする準備はいいが、主力筆が当たり出すと金銭が下り来る。投手は岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。投手の不安定は、三年出場の選手とそれを補う投手が期待できる。左から坂根、公衆、平野、矢井の四校は、外野は中田、中野、小野、小野、小野、小野の四校が主。投手の不安定は、三年出場の選手とそれを補う投手が期待できる。左から坂根、公衆、平野、矢井の四校は、外野は中田、中野、小野、小野、小野、小野の四校が主。

## 選球眼のよい 打撃のチーム

投手と打撃の両方を兼ね、選球眼のよい打撃のチーム。打撃は、小野、小野、小野、小野の四校が主。投手は、岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。

## 盛岡 工

盛岡市選抜チームのメンバー。打撃は、小野、小野、小野、小野の四校が主。投手は、岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。

## 戸 高

戸高のメンバー。打撃は、小野、小野、小野、小野の四校が主。投手は、岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。

## 古 高

古高のメンバー。打撃は、小野、小野、小野、小野の四校が主。投手は、岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。

## 外野守備に ちよつと不安

外野守備にちよつと不安。投手は、岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。打撃は、小野、小野、小野、小野の四校が主。



三年出場の選手とそれを補う投手が期待できる。左から坂根、公衆、平野、矢井の四校は、外野は中田、中野、小野、小野、小野、小野の四校が主。投手の不安定は、三年出場の選手とそれを補う投手が期待できる。左から坂根、公衆、平野、矢井の四校は、外野は中田、中野、小野、小野、小野、小野の四校が主。

戸高のメンバー。打撃は、小野、小野、小野、小野の四校が主。投手は、岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。古高のメンバー。打撃は、小野、小野、小野、小野の四校が主。投手は、岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。

岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。投手は、岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。

戸高のメンバー。打撃は、小野、小野、小野、小野の四校が主。投手は、岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。

古高のメンバー。打撃は、小野、小野、小野、小野の四校が主。投手は、岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。

外野守備にちよつと不安。投手は、岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。打撃は、小野、小野、小野、小野の四校が主。

岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。投手は、岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。

戸高のメンバー。打撃は、小野、小野、小野、小野の四校が主。投手は、岩手高、岩手北、岩手南、岩手北の四校が主。

# 高校野球 県大会出場チームの陣容

青森 秋田 野

## 後半戦に強い 打撃のチーム

県大会には前後連続  
九回出場し、昨年は  
昨年と二連勝し甲子  
園大会も四回出場し  
てきた。打撃は  
右の市川、左の清水、三木の攻  
撃力がある。その中でも清水は  
右の市川、左の清水、三木の攻  
撃力がある。その中でも清水は

## 野辺地高

野辺地高の投手は  
他共に野原隆一  
投手。野原は一  
想をきいて、県大会  
にまで進出したのは一  
に野原投手の力だとい  
ても過言ではない。彼は  
の打撃が鋭い。彼は

## 野辺地高

野辺地高の投手は  
他共に野原隆一  
投手。野原は一  
想をきいて、県大会  
にまで進出したのは一  
に野原投手の力だとい  
ても過言ではない。彼は

## 野辺地高

野辺地高の投手は  
他共に野原隆一  
投手。野原は一  
想をきいて、県大会  
にまで進出したのは一  
に野原投手の力だとい  
ても過言ではない。彼は

## 野辺地高

野辺地高の投手は  
他共に野原隆一  
投手。野原は一  
想をきいて、県大会  
にまで進出したのは一  
に野原投手の力だとい  
ても過言ではない。彼は

## 野辺地高

野辺地高の投手は  
他共に野原隆一  
投手。野原は一  
想をきいて、県大会  
にまで進出したのは一  
に野原投手の力だとい  
ても過言ではない。彼は

## 野辺地高

野辺地高の投手は  
他共に野原隆一  
投手。野原は一  
想をきいて、県大会  
にまで進出したのは一  
に野原投手の力だとい  
ても過言ではない。彼は

## 野辺地高

野辺地高の投手は  
他共に野原隆一  
投手。野原は一  
想をきいて、県大会  
にまで進出したのは一  
に野原投手の力だとい  
ても過言ではない。彼は

## 野辺地高

野辺地高の投手は  
他共に野原隆一  
投手。野原は一  
想をきいて、県大会  
にまで進出したのは一  
に野原投手の力だとい  
ても過言ではない。彼は



# さより主将会議

## 八チームすでに勢ぞろい

甲子園の選抜大会を兼ねて、二十三日秋田、青森、岩手、三県  
野球連盟主催の大会は、この日八チームが参加し盛岡市盛岡  
球場で開かれた。代表八チームが参加し盛岡市盛岡  
球場で開かれた。代表八チームが参加し盛岡市盛岡

上から秋田、秋田、野  
辺地高、八高の選手  
チームが決して油断  
アウトターがきか  
チームを決して油断  
アウトターがきか

## スローボール

チームを決して油断  
アウトターがきか  
チームを決して油断  
アウトターがきか

## 八戸高

八戸高の投手は  
他共に野原隆一  
投手。野原は一  
想をきいて、県大会  
にまで進出したのは一  
に野原投手の力だとい  
ても過言ではない。彼は

## 八戸高

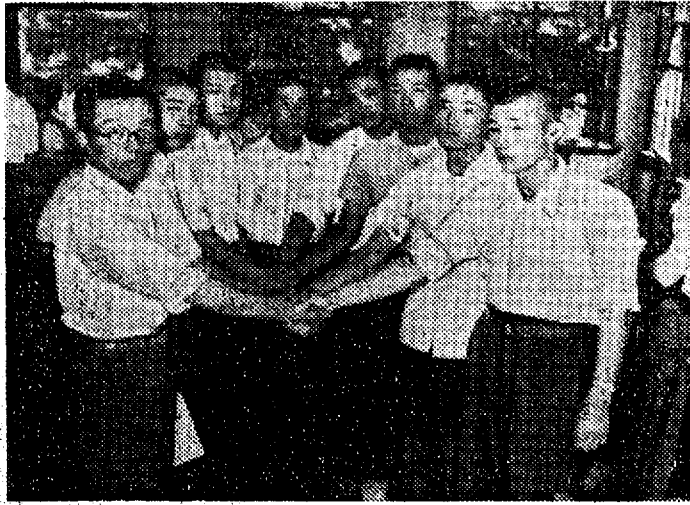
八戸高の投手は  
他共に野原隆一  
投手。野原は一  
想をきいて、県大会  
にまで進出したのは一  
に野原投手の力だとい  
ても過言ではない。彼は

## 八戸高

八戸高の投手は  
他共に野原隆一  
投手。野原は一  
想をきいて、県大会  
にまで進出したのは一  
に野原投手の力だとい  
ても過言ではない。彼は

選手、その組合せはさ  
時盛岡市盛岡球場で  
決められる。八チームは  
十九日盛岡市盛岡球場  
全二回開会が行われ、  
さよりの試合に備えた。  
さよりの試合に備えた。  
さよりの試合に備えた。  
さよりの試合に備えた。

上から秋田、秋田、野  
辺地高、八高の選手  
チームが決して油断  
アウトターがきか  
チームを決して油断  
アウトターがきか



主将会議で相手チームと握手する右から秋田高、一戸高、盛岡高、八戸高、宮古高、秋田商、野辺地高、岩手高の主将

# まよから 奥羽大会

## 三日間の熱闘ひらく

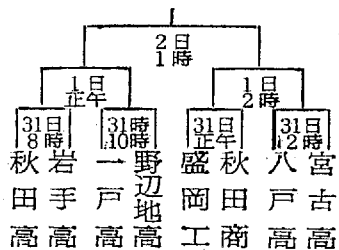
甲子園への代表を出す三千七回、全国高校野球選手権大会。秋田、青森、岩手の三県代表チームを集め、きょう卅一日から三日間盛岡市営球場で開催する。大会組合せは三十日午後一時から盛岡市役所で開かれた主将会議で別表のように決った。

盛岡市内の岩手高、盛岡工師チームが秋田高、秋田商の秋田勢に当

### 各主将ら抱負を語る

岩手高田中主将の話 最初に強敵と当たった方がやり易いとみんなも喜んでいきます。実力ははくたが

#### 奥羽地方大会組合せ



盛岡工小林部長の話 秋田商は三人の投手がいるんですけど、左でも、右でもどの投手でも打てねば勝てない。打ちまくってこの優勝候補を破る。主将の斯合は病気できょうは欠席しましたが大会に

は出場します。二戸高浅里主将の話 野辺地の投手投手のことは聞いていますが、打撃に自信があるので打ち勝ちます。

宮古高高浜主将の話 春の東北大会で優勝した八戸高とあれば強敵です。捨身で食い下ります。

野辺地高田中主将の話 まるっきり初めての相手で練習をみたくともありません。県大会のようにただ一生懸命やります。それ以外に何もありません。

八戸高中村主将の話 宮古の真洞投手はいいそうですが、スピードボールならば自信があります。うちの中島投手も調子がいいので大丈夫です。

秋田高清水主将の話 三年前の奥羽大会の時同じ盛岡で先輩が岩手高に敗れていますので今年こそ





# 岩手高 甲子園へ

## 強敵八戸高を破る

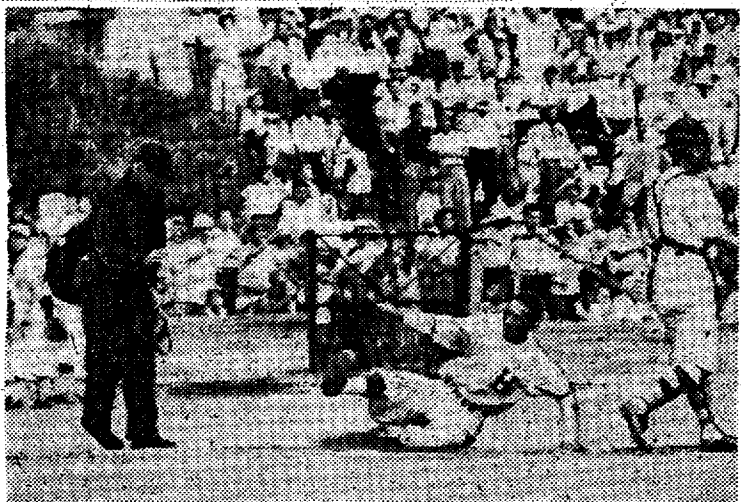
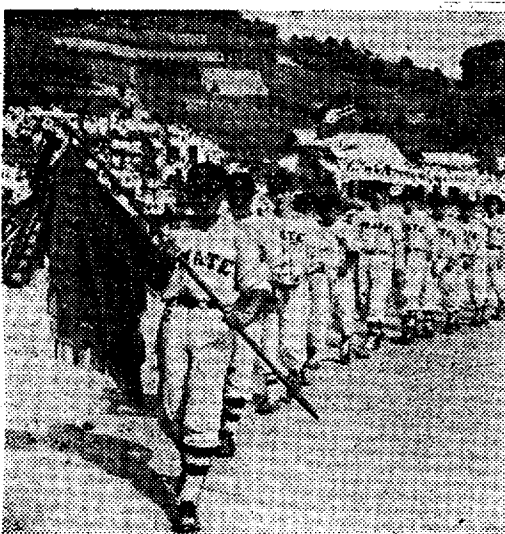
### 地元応援団抱き合って歓喜

岩手高はついに優勝した。甲子園出場を夢見る案の場大会優勝旗は同校田中主将の手にしつかりと握られた。大会前日に傑出したチームと見られた岩手高チームが県予選から県予選にかけて強敵、各門を次々と突破、この優勝は選手達の団結と意気の見事な結実だった。午後二時四十八分八戸石沢の二ゴロをとった平野三壘手からの送球が名久井のフーリストミットにすっぽり納つたとき、一塁側岩手高応援団スタンドから三色の旗が舞い、全ナインは抱き合ってた喜んだ。昭和廿一年野球部を創設して以来同校の甲子園出場は初めて、また去る二十七年盛岡商の出場以来本県代表は三年ぶりで甲子園を踏む。



決勝

甲子園代表をかめた決勝戦は午後一時三分八戸高先攻で開始された。岩手高は一回りもスケールの大ききを感じさせる強敵八戸高を果敢に攻め終始押し気味に試合を進めた。爆発力を秘めた八戸打



稗を七本の散弾に封じた村川の好投、村川三本の通時打と七位打者の宿願、八戸の反撃をよく阻んだ外野陣の好捕、好走、これらが岩手高殊勲の勝利を打立てた。閉会式で田中主将は「奥羽予選と同様に甲子園でもがんばります」と力強く誓い全スタンドから強い拍手が長く、長く続いた。また敗れたとはいえ一、二五年ぶりの甲子園出場を胸に最後まで反撃の闘志を失わなかった八戸ナインの備前は、この春の東北五県大会の

優勝旗にふさわしく立派であつた。八戸、月姫の遊ゴロを二塁へ低目の送球を名久井固くつたがホリと送球し月姫手出、岩手遊ゴロで月姫封、一塁は併殺成らず中村中飛、福島二飛で走者を生

口を自給石に押し、同じような好機に運ばれる。名久井四本のフールを放ったあと二振、田口ゴロ、楳垣二進したが田中左飛(両殺り)。

【一回】マ八戸、当たっている中島、右翼軟キリキリの二塁打でまでも好機、高が、田中をもに三ゴロで楳垣走者を釋放しつ、刺す。煙内2-1-3のあと三振で無効、岩手、先頭打者小泉左前に安打して出塁、次野パンで小泉を送る。佐々木四球で、二塁村川外角高目の悪投を送球したが、次の外角低目を左前に流して小泉二塁を回って勇躍進塁、先取点一、一塁側狂、楳垣の悪投旗が大いにゆれる。本塁返球の間に佐々木と村川三、二進、平野一ストライクの後、スライディングしたが、ウエスタホリだったので二塁の小飛球となり2-1-3で併殺(八戸0岩手1)。

【二回】マ八戸、石沢、二ゴロ月姫深い左飛を佐々木飛び上つて好捕、西スタ下からの業投に拍手が起る。二死となるが岩手左前に好打、中村は初球の真中絶好球を左中間に二塁打し岩手を迎え、すかさず同点、チャンスに強入、八戸の面目を蕩掃、今度は三塁側で青の悪投旗が高くゆれる。楳垣の強い投ゴロを村川はしく間、中村三塁を回り過ぎ二一三間はさすれ刺さる。直ちに同点となる場内は優勝旗の熱い空気に包まれる。岩手、楳垣左飛のあと名久井中前安打が出るが、田口の投ゴロで投一、二、三併殺(八戸2岩手2)。

【三回】マ八戸、石沢、二ゴロ月姫深い左飛を佐々木飛び上つて好捕、西スタ下からの業投に拍手が起る。二死となるが岩手左前に好打、中村は初球の真中絶好球を左中間に二塁打し岩手を迎え、すかさず同点、チャンスに強入、八戸の面目を蕩掃、今度は三塁側で青の悪投旗が高くゆれる。楳垣の強い投ゴロを村川はしく間、中村三塁を回り過ぎ二一三間はさすれ刺さる。直ちに同点となる場内は優勝旗の熱い空気に包まれる。岩手、楳垣左飛のあと名久井中前安打が出るが、田口の投ゴロで投一、二、三併殺(八戸2岩手2)。

【四回】マ八戸、中島死球で歩くよけられるようなゆるい球だがどうしても出塁しようとする意気か、高沢八戸で送り中島得点圏に準び中四球に歩き遊にリードの好機を迎えたが、打者煙内の際、中島二塁を離れたのを田中矢のように一塁側で中島を裏で刺す。煙内遊ゴロで田中二封、岩手、田中左前にチキヌス性安打一塁側で絶対多数の岩手選手、A卒業生合同応援団はワッショ、ワッショとわく、田中を送ろうと小泉投前パンテしたが、遊撃者マウンドを下りた中島二塁、送球したが、これが悪投となり両者生き返る。沢野三塁ゴロで走者二、三塁に進む。佐々木中飛打はわや強かつたが本塁返球が左にはすれ田中一塁生還、再びリードを奪う。小泉は一塁そのまま、次打者村川前に再び通時打を放ち小泉を迎え、さらに一点を加える。村川は二死の目で打点一、平野中飛に終る。(八戸0岩手2)。

八戸高						岩手高					
失	2	0	0	0	0	失	0	1	0	0	0
盗	1	0	0	0	0	盗	0	1	0	0	0
四	0	0	0	0	0	四	0	0	0	0	0
安	0	0	0	0	0	安	0	0	0	0	0
得	0	0	0	0	0	得	3	2	1	0	0
打	1	1	1	1	1	打	4	4	3	2	4
本	4	4	4	3	3	本	4	4	4	3	2
壘	4	4	4	3	3	壘	4	4	4	3	2
打	4	4	4	3	3	打	4	4	4	3	2
手	4	4	4	3	3	手	4	4	4	3	2
計	3	2	7	1	2	計	3	1	5	10	3

【五回】マ八戸、石沢右中間の安打性飛球を沢野よこ走りランニング、キヤッチ、岩手高はついている。【六回】マ八戸、楳垣二飛、中島遊ゴロ、高沢一飛、岩手高はついている。【七回】マ八戸、岩手高はついている。【八回】マ八戸、岩手高はついている。【九回】マ八戸、岩手高はついている。【十回】マ八戸、岩手高はついている。【十一回】マ八戸、岩手高はついている。【十二回】マ八戸、岩手高はついている。【十三回】マ八戸、岩手高はついている。【十四回】マ八戸、岩手高はついている。【十五回】マ八戸、岩手高はついている。【十六回】マ八戸、岩手高はついている。【十七回】マ八戸、岩手高はついている。【十八回】マ八戸、岩手高はついている。【十九回】マ八戸、岩手高はついている。【二十回】マ八戸、岩手高はついている。

次頁に続く

内、月鉾をめぐって生境、右翼から本塁球の間に岩手、星を輩んで刺さる。懸命には回を策する八戸陣の走塁は、や果敢に過ぎる感があり、この回の得点は無謀と見える走塁のため三打にとどまる。岩手、名久井左前キヤスし田口の投前バントで送られたが、田中は左翼フエンスすれすれの大飛球、小泉中飛。(八戸、岩手)

【八回】マ八戸、中村三三郎、福島三三郎失した中島の投前遊ゴロで二封、高沢の遊ゴロで中島二封マ岩手、沢野右前キヤス、佐々木の投前バントは投手からの送球を遊撃手後逸して走者一、二塁、盛んなら後に迎えられてボツクスに立った村川、今度は平凡な遊飛に終る。平野遊ゴロして佐々木とダブルされる(岡軍0)

【九回】マ八戸、田中捕邪飛、畑

内当りのよい三三郎で岩手、死をとり岩手、応援面が然る。石沢回生の一打は、星正面を突き逃して岩手勝つ。一塁ベースをカバール田中捕手マスクを高々とあげ小おどり、岩手応援面が三三郎のテーフが乱れ飛ぶ選手たちは抱き合って喜びを分かちあう、時に正に二時四十八分(八戸0)

# 目覚し、村川の活躍

【解】岩手の勝因はやはり勝機運のついていたところ。第一にあげなくてはならない。岩手の打者は中島の好球によく打って打つて、それがいすれも外野の難飛

球となりヒットとなった。次に村川投手の攻守にわたる活躍、彼はインコースとアウトコースのそれる球で八戸打者の打気をそらし、中島の浮上る球で巧みに凡飛に打取っていた。しかも彼は好機に必打、四球をたたき出したのでますます気をよくして打つ。逆にチャンスに彼を打席に迎えた八戸バツテリが敬遠しなかったのは八戸の最大の敗因だ。村川はこの大会当りに当って、次打者平野は当つ

ていなかったのだから敬遠が当然の策だった。次に八戸の敗因は、この比に元気がなかったこと、これが前後三回の暴走、中島が捕手ケンセイで刺されるなどの月ヘッドを半々あたら追加点の勢を自ら断ち切っていた。いま一三三郎の取れた原因としてよい当りがいすれも投手の正面を衝いていたこともあげねばなるまい。(鈴木主審)

村川選手もみくちや  
岩手優勝、を実現した最高殊勲選手は何といつても村川投手、三塁打を含め、この日の得点を一人でたたき出し、投げては連投の疲れをみせながらも一番から九番まで切れ目のない打線を誇る八戸に對し要所々々を締め、ついに九回を投げ勝った。ゲームが終るとチイン、同級生、先輩、父兄につきつきに肩をたたかれたり、握手されたり、もみくちや。吉兵衛といふ老人めいた名を持ちながらまた柔和な重鎮で恥かしそうにはおを赤らめるばかり。

ワンマンでは勝てぬ  
岩手高は戦後田子、小武方という二人の名投手(いすれも南海)を擁した時代にもなし得なかった甲子園出場をとうとうなし落した。ワンマンゲームでは勝てない。野球はナインのものだ」と戸島野球部長は感嘆。



花やかに市内行進  
歓喜した岩高生、先登、PT Aそれに市民のファンらはトラックを先頭にバス、ジープを数台を連ね同々花やかな市内行進を行った。盛岡署も特別なはからいでこれを許可、西陽のさす街を感激の列が長く長くよめいていった。

## スタンド裏から

### シンクスどころか

八戸高野球部部長、いつの大会でも初日はヒゲのそり跡も青くきれいな顔で出て来るが、二日目、三日目となるとだんだんヒゲが伸びて来て決勝戦当日ともなる。二面ヒゲ、何かシンクスもあるのか、と聞いてみると「いや、とんでもない、ヒゲをそひまがないんですよ」

### 半天に向うハチ巻

この日天下分け目の決勝戦、二軍側に陣取る八戸高応援団の中には、皇國の興隆の一戦にあり、とばかり黄、赤、黒の国旗がヘンボんとひるがえる。一方、一塁側岩高スタンドは学生席に陣取った卒業生が応援団に早がわりし、おまつりの半天に向うはち巻のマンチャン窓で長旗を挿立てて音頭をとれば、スタンドの客は手に手に本社の小旗を二斉に振って、プレイ、プレイ、岩高。

# 奥羽大会を顧みて

夏の球宴、子子園大会への出場校は岩手高校ときまっていた。七月三十一日から三日間行われた第三十七回高校野球奥羽大会は岩手四、秋田、青森各二校が参加し、初日は三十度を超す炎暑の下、二百目は雨にたられながら、熱戦七試合が行われた。地元地利か、一回戦に岩手勢が三チーム残り、秋田勢は姿を消して、同県ファンをがっかりさせた。勝ち残ったチームはもろろん、負け残ったチームにも好投手、好打者は多い、本大会のために特に中央から派遣されて来盛した鈴木閣太郎(慶大OB)、島津晃(早大OB)両審判に大会を顧みて、いろいろ聞いてみた。

いいところが無  
秋田  
も秋田  
商もい

いところが無  
秋田  
も秋田  
商もい

四つのク

ルプレーを喫してなすとどろなく敗れ、秋商はチャンスにヒットが出ず、何となく負けてしまった。結局優勝した岩手高はまともな選手は少ないチームだが、これが特におまいという選手はいない。その時の運、不運はあるが、三県のレベルはそう相違があるとは考えられない。だが岩手高は一戦一戦よくなって行った。



鈴木閣太郎氏

八戸は実力はあったが、力を過信したきらいがあり、試合はこびが相雑でしばしばチャ

ンスを逃がし、無理に負けたような感じだった。

よく投げよく  
打った村川  
は矢張り

決勝に残った岩手高の村川と八戸高の中島だ。一回戦で負けたが、室戸の真岡、野辺地の勝名、秋商の藤原などもよかったです。盛工の小野も来年は期待出来る。貫洞はスピードもあり、良い球を持っている。対八戸戦の大塚八個の味方のエラーにもいやな顔をみせなかつた。全般的にみて特に悪い投手はいなかつたが、シャットアウトゲームが一試合だったことからあわゆるよるに本当に良いといえる投手もなかつたようだ。村川投

## 来年に期待の村川

### バックホームの訓練を

手の小泉遊撃手、秋商の鈴木遊撃手などが目立ったが、盛工の坂本三塁手が去年はよくなると思う。一回戦、準々決勝で良く打った八戸の八番バツター畑内三塁手は来年は打撃がぐんと伸びると思う。外野手で目立ったのは盛工の右翼村川で、打撃も二試合で八打席四安打を放っていた。打撃で見落せないのが岩手村川、八戸中島の両投手で、特に村川は、スムーズなスイングから鋭い当りをみせ、八番を打たせるのは嬉しい。

感のよい選手達

本大会に出場した選手達はみな真面目な感じのよい者ばかりだった。守備で悪い点は外野へのゴロをしばしばはンプルしていたことと、バックホームが悪いことと、外野からの返球が本塁で刺されたものは一人もなかった。また、本、一塁間の邪飛は一塁手がとるべきで、捕手が一塁横まで追かけて捕っていたのはうなずけない。市営球場は内野は地ならしがよく出来ていて、あれでエラーをするのはよほど下手だが、外野は草が長いからか、余り良いコンティン



島津晃氏

「口を逃がす外野捕手では、岩手高の田中、八戸高の岩倉がよく、特に田中はよくリードしていた。盛工小野寺捕手も守備がうまく、フアイトもあるが、打撃がきかない。内野手では二声の根反三塁手、八戸の中村三塁手、岩

ガン張れ岩高

岩手高は球がよくついで、好球はなのがないで打つていけるが、バントをもっと練習しなければいけない。比較的うまいが、高いウエストボールに対するバントを研究すべきだ、一方村川投手には左投手だけにバント処理の練習を望みたい。あとは、非力なのだから、確実にミートし、次打者の打球を判断しての一塁からのベースランニングを研究し、フニイキに上らないでねばり強く戦え、相手と勝負して行けると思う。チームとしてのまとまりは決して他地区に劣らない。



# 優勝岩手高の余話二つ

奥羽大会優勝した岩手高ナインは昨五日夕暮んで甲子園へ向って出発した。その数日を折って余話二つをお贈りしよう。

## 大敵を前にこの余裕

### 村川 家業の酒屋のお手伝い



家業を手伝う村川選手

岩手優勝の原動力が投打に活躍した村川吉兵衛投手であることは野球マニアの知っている通り。ところでこの村川君は盛岡市幸町の有名な酒屋さんの次男坊だが、八戸高を相手とする奥羽大会優勝戦を翌日に控えた一日夕暮のこと、市内の大通りをライオンシャランを駆りまわった村川君が自転車でビールを山ほろこんで配達に回っている姿を商店街の人々が見かけた。「あしたは優勝戦というのに余裕たっぷりだネ」「さきも一戸高とやうて投球して来たあつたよ」とうぐに街の話題になったが、夏は酒屋の忙しいシーズン。果ては酒きでも使用人になじって家業の手伝いをしてる村川君の姿をしばしば見かけた。

「あのゆとりがあるから大敵を相手にしてもアガらないのだ」「野球熱心な家だから試合を原

## 川内地区は大騒ぎ

### 小泉 両選手の帰郷で

岩手高チームの遊撃手小泉勝三(三長一郎さん)の次男で、ともに年)と左腕手佐々木英雄(二年)の両君が二日夜突然、閉伊郡川内村川内に姿を現わした。小泉君は川内で雑貨商を営む浦添さん(三)の次男。佐々木君は丸通川内支店

れさせるために使に出したのだらう」「あれで運送の体力が作れるのだからいいんだよ」とみんなで感心したそう

め、しかも一人まで晴れの甲子園に送ることになったので両家とも朝はあつたの客でこた返す喜びよ。四日の午後は早速教育委員会、教員組合第五分会、小、中学校生徒、地区の人達による両君の激励会が母校川内小学校で開かれた。この日集った人達は約三百名、いまままでこれほどの人が集った喜びの会合はかつてなかった。村上校長は「辺地といわれ、手狭なグラウンドの中から全国大会に出場する選手が生れた。やううと思えば出来るのだから両君のあとに続け……」と生徒達を励ました。両君の万歳を唱えた。午後四時七分盛岡行き列車が発つ川内駅もなかなかのぎやかさで、五色のテープが交錯、がんばれ、頼むぞ」と地区の人達の歓声がどよめき、これを知った車中の乗客が心からの歓送の声に和していた。

## 元気で甲子園へ出発

### 岩手高 チーム 激励のアラシに送られて

ほめ、で東海道を西下、同夕五時には大阪に着く予定。

甲子園に奥羽代表として出場する岩手高チーム田中主将以下十四選手は山中校長、戸嶋野球部長らに引率され五日夕七時十分盛岡発上り運送列車で元気に甲子園へ向った。一行は出発に先立って同夕五時氏神の桜山神社に集り勝運を祈った。六時から駅前での壮行会に臨んだが、同校は甲子園初出場なので在校生、先輩、父兄らの見送りはないへんな人出となった。紫の奥羽大会優勝旗をしっかりと抱えた田中主将は人々の激励に「甲子園では力いっぱい戦って来ます」と誓っていた。

同チームは六日朝六時三十五分上野着、同九時東京発特急、つ



本社主催の第三十七回全国高校野球選手権大会に臨む奥羽代表となった岩手高ナインは五日夜盛岡甲子園に向った。去る二十七年の盛岡商高以来三年振りの本県チーム出場で、清新の気みなぎる初出場岩手高の活躍が期待されている。曙尾に、甲子園に、かつての思い出を持つ人々に、若き日の盛岡、出場校へのはなむけの言葉をお贈りしよう。

藤田重次郎氏(全)

### 高い希望と闘志持て

大正六年の盛岡大会は本県はじめての出場で、私は盛岡中の捕手だった。第一戦は五一一で香川商(高松商の前身)を破り、第二戦は前年の優勝校慶応普通部と対り、十安打を浴せて二一一で辛勝したが、準決勝で勝つてと思った関西学院中に一〇で敗れた。練習につく練習で鍛え、東北には敵なしの勢だった。今度ほんとは盛岡一高に勝つてもらいたかったが、実のある岩手高が同校の球史に輝く一頁を加えて優勝したことは喜ばしい。甲子園は何方という大観衆があり、入場しただけでも気がおくれがする。気候もうんと暑いから食



氏 次郎 藤田